

低い障がい者雇用率が問題に理解し合うことが何より大切

工賃アップにも努める

障がい者の就労の大切さについて、横山理事長は常々おっしゃっていますね。三重県にはどんな課題がありますか。

横山 三重県の障がい者雇用率は残念ながら全国でワースト2位(2011年)にとどまっています。私どもでは、企業での面接時の挨拶の仕方からプレゼンテーションの方法などを教えています。まずは障がい者を指導する職員自体の、スキルをレベルアップしていく必要がありますね。また、工賃倍増計画といつて、障がい者の工賃を上げる取り組みを行っています。

土岐 具体的な取り組みがありましたが教えてください。

横山 就労事業の一つとして、昨年11月、津波被害が予想される四日市市で「白い小箱運動」を行いました。障がい者の皆さんが米や水を包装し、「災害用非常食品」として無料配布する

運動で今年の3月にも行う予定です。昨年行った際のイベントでは、武田さんにもご挨拶をいただきました。

では、武田さんにもご挨拶をいたしました。

スポーツで明るい社会に

土岐 障がい者の方が仕事を持つときに立ちはだかる壁があることについて、武田さんはどう思われますか。

武田 知的障害の方を雇用するときに難関となるのは、彼らが仕事をする上で問題が発生した場合に混乱してしまうことがあるということです。雇用する側はその対応の方法に困ることもあるかもしれません、障がい者も一緒に働くのが当然だということをまず前提にしてほしい。障がい者の方が混乱するときには必ず理由がありますから、その前兆や対応方法に

ついて、地域や行政も一緒に勉強会を行うなどの取り組みが、もつと広まればいいと思います。

国や行政、地域社会、企業はどうどのように連携していくのがよいとお考えですか。

横山 お互いに理解し合おうとするべきです。ベースの考えが違つたらいつまでも連携できませんから。ところがどちらか

といふと日本は、障がい者を取り巻く環境が閉鎖的な社会といえます。そこにあかりを灯すには、スポーツが何より有効な手段になります。障がい者たちもスペシャルオリンピックをはじめとするスポーツイベントにどんどん参加をして、明るい社会を作つていければと願っています。



横山 仁司氏

PROFILE / 1945年三重県生まれ。株式会社NTTマーケティングアクト三重で代表取締役社長を務めた後、2007年に社会福祉法人伊勢亀鈴会 理事長に就任。「身体」「知的」「精神」「自閉症」障がい者の「生活」「就労」支援事業及び「福祉葬祭三重」の葬祭事業を実施。2011年7月からは、遺品整理、独居老人宅の環境整備を中心とする地域貢献事業「まかせ太君」をスタート。



武田 美保さん

PROFILE / 1976年京都府生まれ。5歳から水泳をはじめ、7歳でシンクロコースへ。デュエットで日本選手権7連覇。世界水泳で金メダル。アトランタ、シドニー、アテネの3つのオリンピックで銀・銅合わせて5つのメダルを獲得。引退後もシンクロ解説、シンクロを用いたショー、三重大学特任教授就任、講演などで活躍中。